平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人千葉大学

１ 全体評価

千葉大学は、「つねに、より高きものをめざして」という理念の下、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命としている。第３期中期目標期間においては、世界水準の教育研究機能を有する未来志向型総合大学として、優れた教育プログラムと最善の環境の提供による高い問題解決能力を備えたグローバル人材の育成や、先駆的・先端的研究及び融合型研究を推進するとともに、特色ある研究分野を戦略的に強化することで世界・日本・地域に貢献可能なイノベーション創出に結び付く世界水準の教育研究拠点となること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、全学教育マネジメント体制の機能強化、教学改善を自律的・継続的に行うための内部質保証システムを構築するとともに、先進科学プログラムの分野拡大をはじめとする学修制度改革に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　高等教育研究機構を廃止し、国際未来教育基幹への統合・再編を決定するとともに、イノベーション教育、高大接続、地域連携教育の３センターを新たに設置し、全学教育マネジメント体制の機能強化、教学改善を自律的・継続的に行うための内部質保証システムを構築している。（ユニット「国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践と次世代型人材育成」に関する取組）

○　多様な海外留学スタイルに対応できる海外留学プログラムの構築や学生交流協定の増加、海外大学におけるキャンパスの開設等、学生の海外派遣や外国人留学生の受入れに取り組んでいる。（ユニット「グローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－」に関する取組）

○　ドイツ・シャリテ医科大学に設置した千葉大学オフィスにおける入試プログラムを開始するとともに、予防医学センターとシャリテ医科大学によるカリキュラムの相互認定、日独共同講義を含むサーティフィケートプログラムの実施に向けて検討を始めている。（ユニット「指導的立場に立つグローバル人材を育成する卓越した大学院の形成」に関する取組）

２ 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化				○		
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載17事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるが、附属病院における画像診断確認体制に課題があったこと等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について**課題**がある。

○ 附属病院における画像診断に関する確認体制の不備

附属病院において、CT検査の画像診断に関する確認不足等で診断の遅れが生じ、治療結果に影響を与える事案が発生したことから、画像診断報告書の運用方法や診断体制の見直しを含め、抜本的な再発防止策を講じることが求められる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載４事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成 29 年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 情報セキュリティ水準の維持・向上のための取組

情報収集を基盤にインシデントの予防、対応を行うCSIRT 活動において、他機関と情報交換、知見共有の場を構築するため、千葉大学が主導となり「学術系CSIRT 情報交流会」を整備し、３回の交流会を実施している。交流会の実施により、学術機関全体のセキュリティレベルの向上に寄与するとともに、新たな知見を獲得し、自大学及び各組織における技術的、人的な対策強化の情報源となっている。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ バンコク・キャンパスの設置

学生の留学トレーニングスタジオ、協定校の学生向けコンテンツの実施スペースとして、マヒドン大学インターナショナルカレッジ（MUIC）内に「千葉大学バンコク・キャンパス」を開設しており、現地の学生向けにセミナーや実習の調整を行うとともに、留学初心者向け体験型留学プログラムを実施するなど、国際教育拠点としても活用している。

○ 先進科学プログラムと連携した「次世代才能スキップアップ」プログラム

優れた能力や資質を持つ若者が、早期から研究の基礎となる学問を学び、将来研究者等になるための先進科学プログラム（飛び入学）を理工系学部を中心に拡大するとともに、高大接続システム改革と連動させた「次世代才能スキップアップ」プログラムを実施し成果をあげている。

○ SULAの複数配置による学修支援実施

教員と協力して高度な学修支援・学務指導を行うSULA(Super University Learning Administrator)を、従来の国際教養学部に加えて、事務局、人文社会科学系学部、理学部、工学部、園芸学部に計10名を新たに配置している。また、教育関係共同利用拠点として認定を受けた「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム」による履修証明プログラムを受講するSULAサーティフィケートコースを構築している。

○ 環境ISO学生委員会による環境マネジメントの推進

学生主体で運営する環境ISO学生委員会と京葉銀行が地域活性と環境に貢献することを目的とした共同プロジェクトを実施しており、「環境目的・目標・実施計画」の原案作成、内部環境監査員、環境ISO基礎研修講師等、学生が中心となって企業の環境活動支援や地域住民を対象とした啓発イベント等の活動に取り組んでいる。

共同利用・共同研究拠点

○ 腸内細菌とリンパ球による腸管恒常性制御機構の研究の推進

真菌医学研究センターでは、無菌動物飼育実験設備、オープンリサーチラボ等、共同利用・共同研究の支援に必要な一連の施設・設備等を積極的に整備しており、同センター准教授が「腸内細菌と３型自然リンパ球による腸管恒常性制御機構の研究」により、平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「若手科学者賞」を受賞している。本業績は、腸管恒常性維持システムの解明とその破綻によって引き起こされる様々な疾患の予防・治療・診断法の開発に大きく貢献するものである。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 企業とも連携した履修証明プログラムの提供

遠隔医療の導入や運用、開発に活躍できる人材養成を目的とした履修証明プログラム「遠隔医療マネジメントプログラム」を開始し情報通信事業者とも連携した教育コンテンツを作成（29名が受講）しており、実践的かつ体系的な学習機会を提供している。

（診療面）

○ 乳がん患者の一貫した治療を行うブレストセンターの設置

乳がん患者は世界的に増加の一途をたどっており、患者一人ひとりのライフスタイルや社会的状況に配慮した治療が喫緊の課題であることを踏まえ、主要な診療ブースを外来に集約・関連する診療科・部門の連携を強化した、カウンセリングから診断・治療、術後ケアまで一貫した診療を行う「ブレストセンター」を設置し、質の高いチーム医療の提供、患者の負担軽減に取り組んでいる。

（運営面）

○ 病院広報体制の充実

附属病院の広報活動の一環として、テレビ番組取材やドラマ撮影協力のため施設の貸出しを実施した結果、附属病院ウェブサイトのページビューが30,000ページビューへと大幅に増加するなど、広報体制の充実が図られている。